

Ⅰ 学期間の非対面留学生活

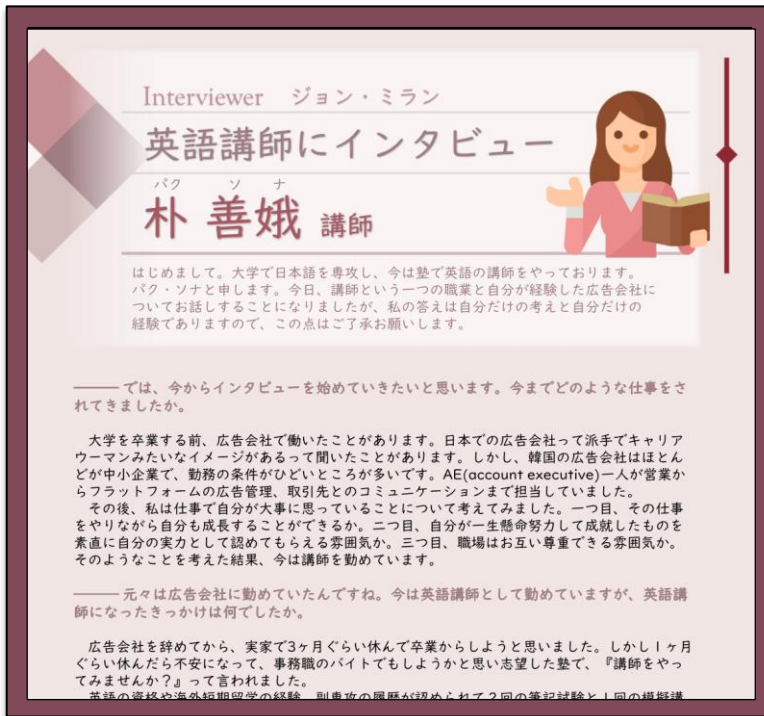
釜山外国語大学
ジョン・ミラン

釜山外国語大学で長期交換留学生(1年)として選ばれ、お茶の水女子大学の授業を受けるようになってから1学期が過ぎました。今から1学期の間、私が経験した留学生活について話したいと思います。

私は2019年後学期にお茶の水女子大学への交換留学が決まり、2020年前学期から1年間留学をする予定でした。しかし、2019年後期から流行し始めた新型コロナウイルス感染症により、留学が1年間延期され、2021年前学期から留学することになりました。しかし、2021年3月に日本国内での感染者が急増し、緊急事態宣言が下されビザが取れなくなりました。そのような状況が今まで続き、私は韓国で授業を受ける形で1学期の留学を終えました。

今学期の留学が決まった後、一番最初にしたことは受講申請でした。今学期はビザが取得できなかったため、学部の授業を受けることができず、留学生向けの授業のみ履修できました。「交換留学生 HR」を含めた8つの科目を履修しなければならないので、計8つの科目を受講しました。授業は「zoom」という会議プログラムを使い、リアルタイムで行われました。留学生授業は中国、トルコ、台湾など様々な国から来た留学生と小規模で話し合う機会が多く、様々な視点の意見を交わすことができました。そして、チームで行われる課題では、お互いの連絡先を共有し、zoomでディスカッションをするなどの方法で進め、その過程で他の留学生との親睦を深めることができました。

今学期に受けた授業の中で最も印象的な授業は「日本語事情演習 5A」と「日本語演習 3A」授業です。まず、「日本語事情演習 5A」授業は、お茶の水女子大学の学部生と留学生、そして釜山外国語大学の韓国人の学生と一緒に話し合える遠隔授業です。主に、韓国と日本の関係についての踏み込んだ議論ができるので、日韓関係に興味を持っている学生にお勧めしたい授業です。私は日韓関係に関心があったわけではありませんでしたが、今回の授業を通して、日韓関係について振り返り、悪化し続けている日韓関係を克服するために学生である私に何ができるかを考えるようになり、歴史問題に関してもこれからもっと勉強して、解決策を模索していきたいと思うようになりました。



そして、「日本語演習 3A」授業は学生たちがインタビュー調査を行い、パンフレットを作り上げる授業です。インタビュー調査の対象者からパンフレットのデザイン、発注まですべての過程を学生たちが決めていく授業なので、とてもやりがいのある授業でした。できあがったパンフレットは持ち帰ることができますので、留学が終わった後、留学生生活を振り返る際に、一つの思い出になると思います。

日本での生活を楽しめないことはとても残念ですが、1学期間の留学を通して、多くの先生と留学生、日本人の学生と出会い、交流することで、自分の視野をさらに広めることができたと感じています。来学期は、日本で対面授業を受けられるようになることを願っています。

最後に1学期の間、たくさん手伝ってもらった方々に感謝の気持ちを伝えたいと思います。まず、指導教官の森山先生、毎月振り返りシートを確認していただき本当にありがとうございました。それから、萩原先生と松田先生、交換留学生である私をサポートしてくださってありがとうございます。最後に、今学期受けた授業担当の西坂先生と黄先生、有益な授業を準備してくださってありがとうございました。